

## 多文化共生についてのアンケート結果

本県には、3万3千76人の外国人が住んでいます。(令和2年12月末現在:住民基本台帳人口)これは、県民約43人に1人が外国人ということになります。

県では、滋賀県多文化共生推進プラン(第2次改定版)を策定し、

「滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などの違いにかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる多文化共生の地域社会」を目指し、多文化共生施策に取り組んでいます。

多文化共生の推進にあたり、県民の皆様の多文化共生についての意識や外国人県民等との関わりの現状について把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

【外国人県民等とは】

国籍、民族にかかわらず、母語や文化、宗教、生活習慣など、日本以外の背景をもつ県民

★調査時期:令和3年11月

★対象者:県政モニター298人

★回答数:232人(回収率77.9%)

★担当課:総合企画部国際課

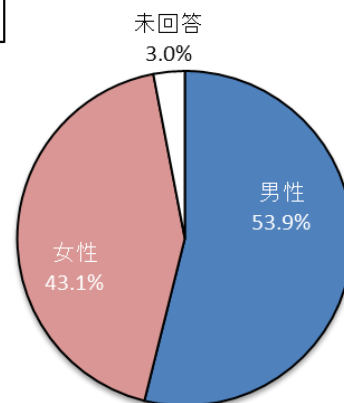
(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

【属性】

◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	125	53.9
女性	100	43.1
未回答	7	3.0
合計	232	100.0

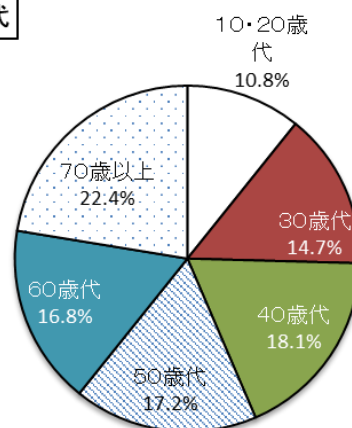
性別



◆年代

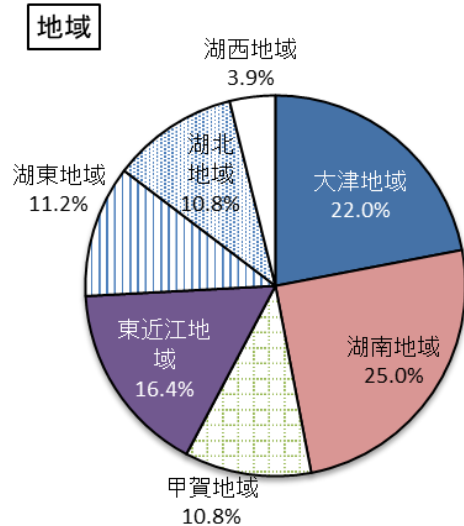
項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	25	10.8
30歳代	34	14.7
40歳代	42	18.1
50歳代	40	17.2
60歳代	39	16.8
70歳以上	52	22.4
合計	232	100.0

年代



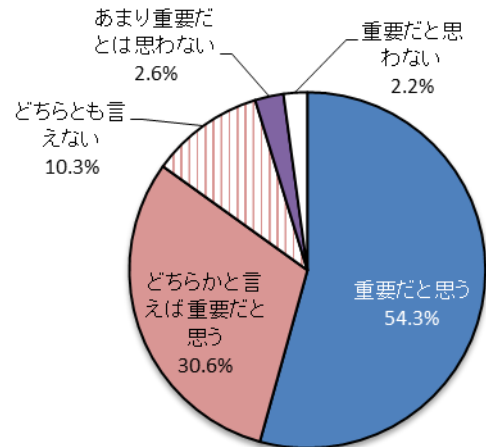
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	51	22.0
湖南地域	58	25.0
甲賀地域	25	10.8
東近江地域	38	16.4
湖東地域	26	11.2
湖北地域	25	10.8
湖西地域	9	3.9
合計	232	100.0



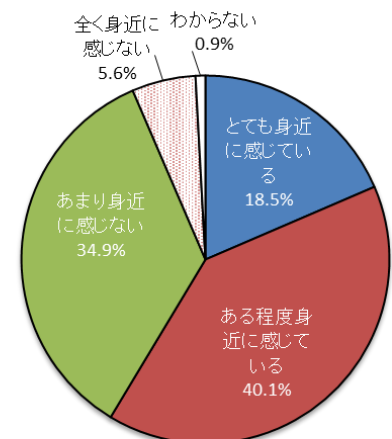
問1 あなたは、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく。」多文化共生社会の実現についてどう思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=232)

項目	人数(人)	割合(%)
重要だと思う	126	54.3
どちらかと言えば重要だと思う	71	30.6
どちらとも言えない	24	10.3
あまり重要だとは思わない	6	2.6
重要だと思わない	5	2.2
合計	232	100.0



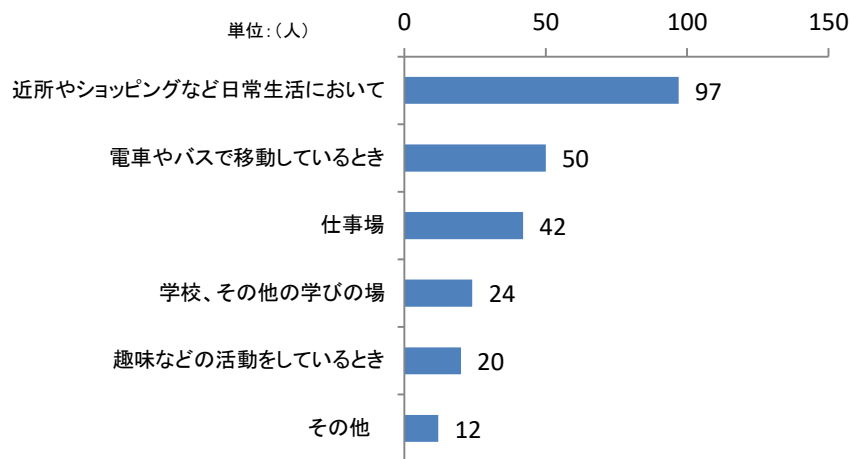
問2 あなたは、普段生活をしていて、外国人県民等の存在を身近に感じますか。(回答チェックは1つだけ。n=232)

項目	人数(人)	割合(%)
とても身近に感じている	43	18.5
ある程度身近に感じている	93	40.1
あまり身近に感じない	81	34.9
全く身近に感じない	13	5.6
わからない	2	0.9
合計	232	100.0



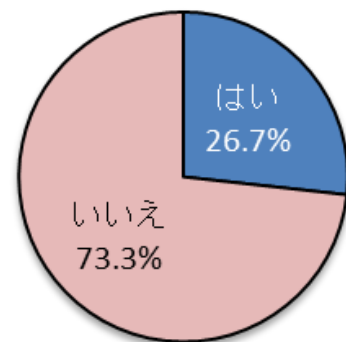
問3 【問2】で「とても身近に感じている」または「ある程度身近に感じている」を選択された方にお尋ねします。どのような場面で外国人県民等の存在を身近に感じますか。  
 (回答チェックはいくつでも。n=136)

項目	人数(人)	割合(%)
近所やショッピングなど日常生活において	97	71.3
電車やバスで移動しているとき	50	36.8
仕事場	42	30.9
学校、その他の学びの場	24	17.6
趣味などの活動をしているとき	20	14.7
その他	12	8.8



問4 あなたは過去3ヶ月間に、外国人県民等と会話(単なる“こんにちは”以上)をしたことはありますか。(回答チェックは1つだけ。n=232)

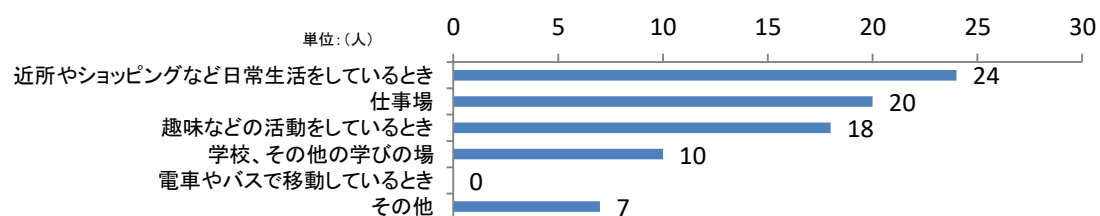
項目	人数(人)	割合(%)
はい	62	26.7
いいえ	170	73.3
合計	232	100.0



問5 【問4】で「はい」と選択された方にお尋ねします。

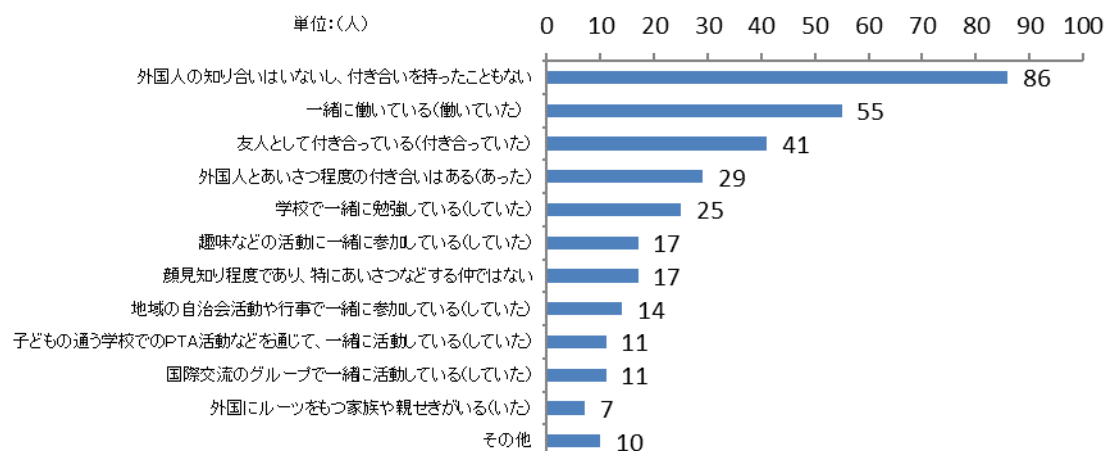
その会話は、どこでしたか。(回答チェックはいくつでも。n=62)

項目	人数(人)	割合(%)
近所やショッピングなど日常生活をしているとき	24	38.7
仕事場	20	32.3
趣味などの活動をしているとき	18	29.0
学校、その他の学びの場	10	16.1
電車やバスで移動しているとき	0	0.0
その他	7	11.3



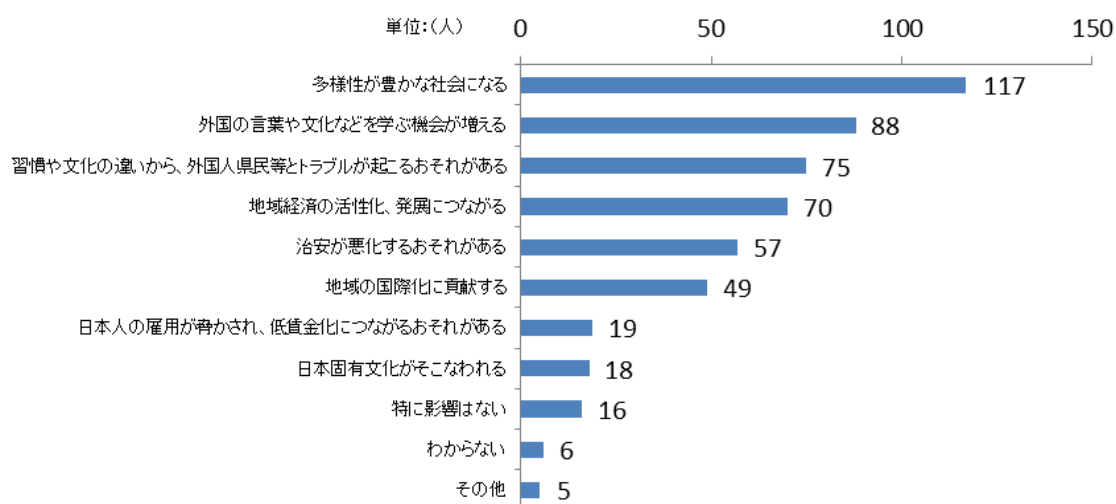
問6 あなたは外国人県民等とどのような付き合いがありますか。  
 (過去の経験を含む)(回答チェックはいくつでも。n=232)

項目	人数(人)	割合(%)
外国人の知り合いはいないし、付き合いを持ったこともない	86	37.1
一緒に働いている(働いていた)	55	23.7
友人として付き合っている(付き合っていた)	41	17.7
外国人とあいさつ程度の付き合いはある(あった)	29	12.5
学校で一緒に勉強している(していた)	25	10.8
趣味などの活動と一緒に参加している(していた)	17	7.3
顔見知り程度であり、特にあいさつなどする仲ではない	17	7.3
地域の自治会活動や行事と一緒に参加している(していた)	14	6.0
子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)	11	4.7
国際交流のグループと一緒に活動している(していた)	11	4.7
外国にルーツをもつ家族や親せきがいる(いた)	7	3.0
その他	10	4.3



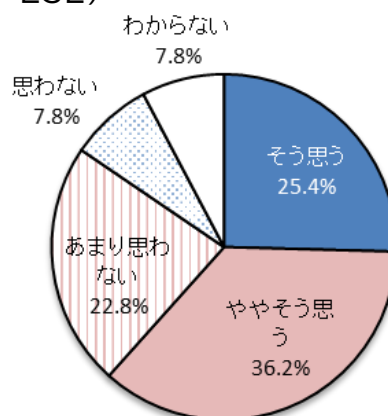
問7 あなたは、地域社会に外国人県民等が増えることについてどう思いますか。  
 (回答チェックは3つまで。 n=232)

項目	人数(人)	割合(%)
多様性が豊かな社会になる	117	50.4
外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	88	37.9
習慣や文化の違いから、外国人県民等とトラブルが起こるおそれがある	75	32.3
地域経済の活性化、発展につながる	70	30.2
治安が悪化するおそれがある	57	24.6
地域の国際化に貢献する	49	21.1
日本人の雇用が脅かされ、低賃金化につながるおそれがある	19	8.2
日本固有文化がそこなわれる	18	7.8
特に影響はない	16	6.9
わからない	6	2.6
その他	5	2.2



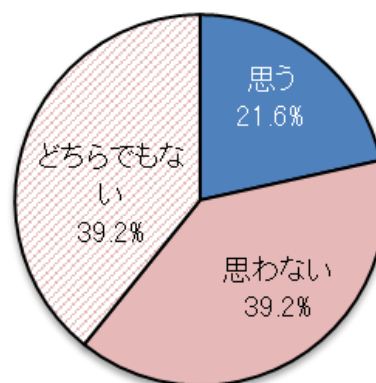
問8 あなたは、外国人県民等と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=232)

項目	人数(人)	割合(%)
そう思う	59	25.4
ややそう思う	84	36.2
あまり思わない	53	22.8
思わない	18	7.8
わからない	18	7.8
合計	232	100.0



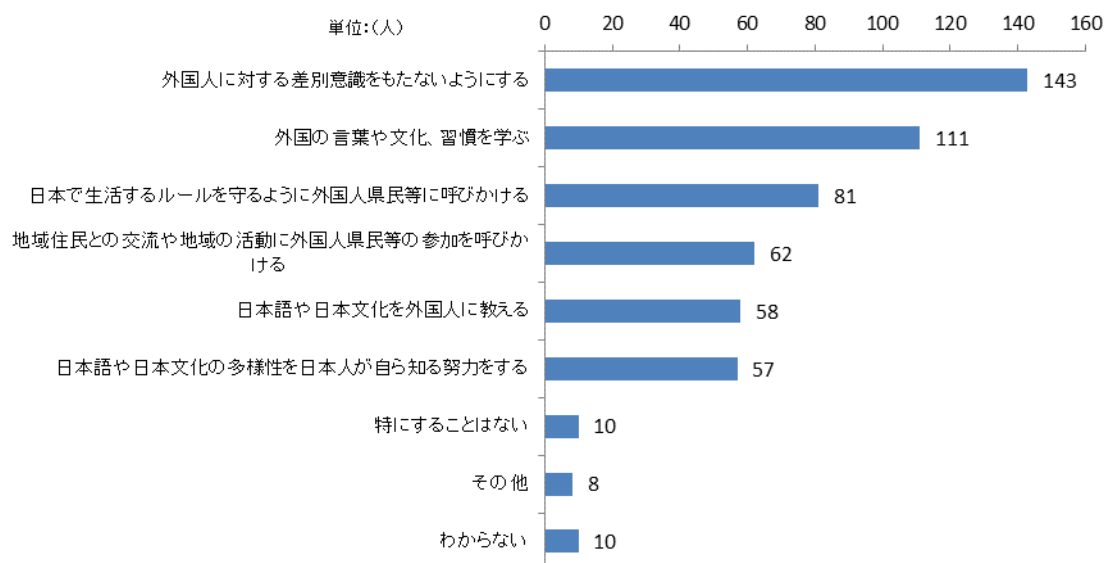
問9 あなたは外国人県民等が地域の一員として、地域の社会活動等(例:自治会などの地縁組織の活動、祭り等の地域行事、ボランティア活動など)に参画していると思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=232)

項目	人数(人)	割合(%)
思う	50	21.6
思わない	91	39.2
どちらでもない	91	39.2
合計	232	100.0



問 10 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしてい  
 ために、日本人県民は何をすべきと思いますか。(回答チェックは3つまで。n=232)

項 目	人数(人)	割合(%)
外国人に対する差別意識をもたない ようにする	143	61.6
外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	111	47.8
日本で生活するルールを守るように外 国人県民等に呼びかける	81	34.9
地域住民との交流や地域の活動に外 国人県民等の参加を呼びかける	62	26.7
日本語や日本文化を外国人に教える	58	25.0
日本語や日本文化の多様性を日本人 が自ら知る努力をする	57	24.6
特にすることはない	10	4.3
わからない	10	4.3
その他	8	3.4

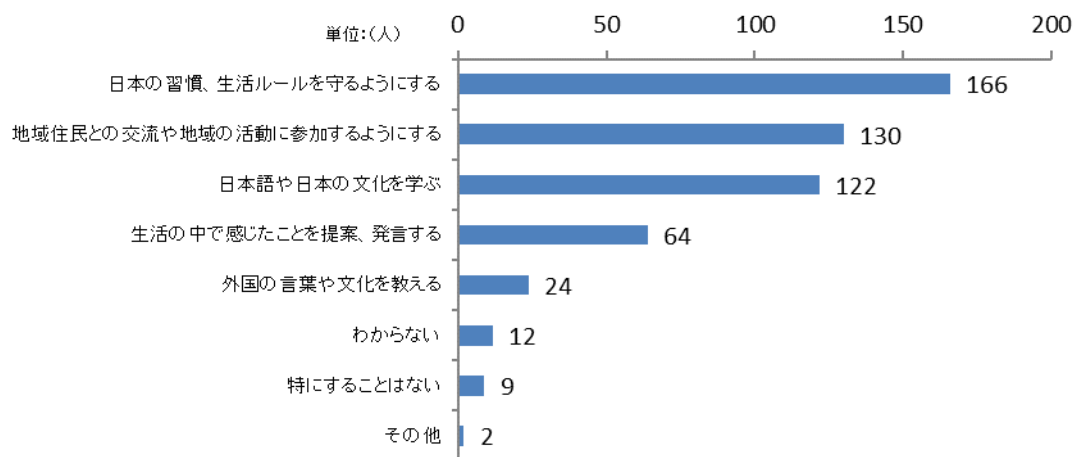




問 11 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしていくために、外国人県民等は何をすべきと思いますか。

(回答チェックは3つまで。 n=232)

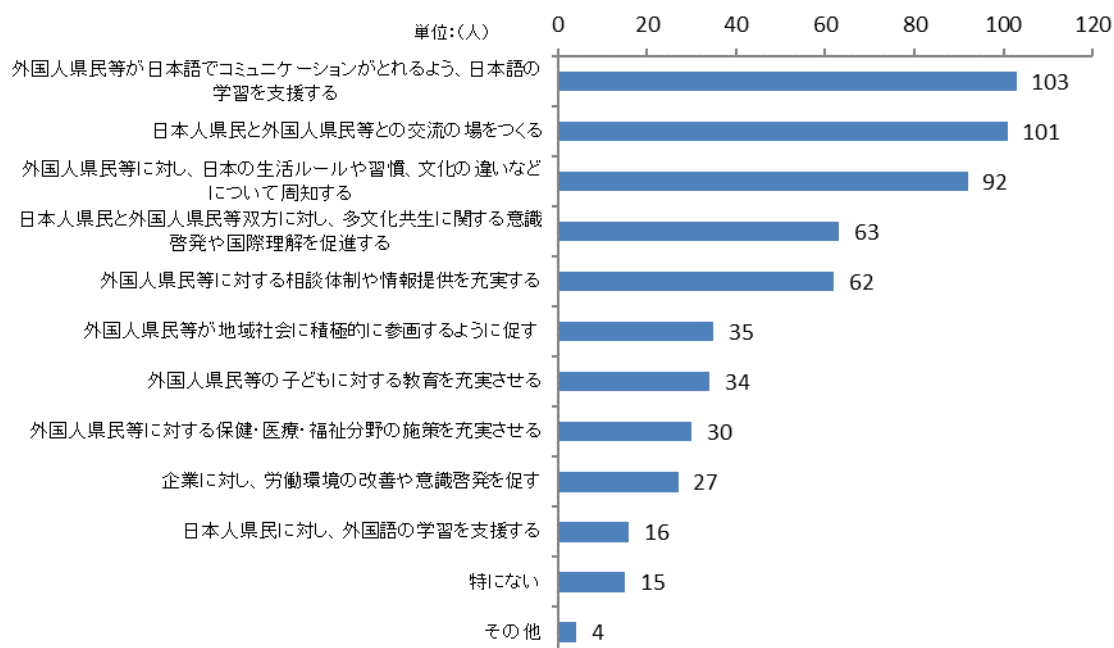
項目	人数(人)	割合(%)
日本の習慣、生活ルールを守るようにする	166	71.6
地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	130	56.0
日本語や日本の文化を学ぶ	122	52.6
生活の中で感じたことを提案、発言する	64	27.6
外国の言葉や文化を教える	24	10.3
わからない	12	5.2
特にすることはない	9	3.9
その他	2	0.9



問 12 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる社会にしていくために、県や市町などの行政は、どのような取り組みに力を入れるべきと思いますか。

(回答チェックは3つまで。n=232)

項目	人数(人)	割合(%)
外国人県民等が日本語でコミュニケーションがとれるよう、日本語の学習を支援する	103	44.4
日本人県民と外国人県民等との交流の場をつくる	101	43.5
外国人県民等に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	92	39.7
日本人県民等と外国人県民等双方に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	63	27.2
外国人県民等に対する相談体制や情報提供を充実する	62	26.7
外国人県民等が地域社会に積極的に参画するように促す	35	15.1
外国人県民等の子どもに対する教育を充実させる	34	14.7
外国人県民等に対する保健・医療・福祉分野の施策を充実させる	30	12.9
企業に対し、労働環境の改善や意識啓発を促す	27	11.6
日本人県民に対し、外国語の学習を支援する	16	6.9
特にない	15	6.5
その他	4	1.7



問 13 外国人県民等と日本語でコミュニケーションが取れず困った経験があれば、教えてください。(抜粋)

- ・コミュニケーションがとれずに困ったことはない。
- ・コミュニケーションをもっととりたいと思うが、もう一步踏み込むことができていない。声をかけるきっかけが欲しい。
- ・近所に外国人の方が住まわれているが、声をかけてよいのか迷う。仲良くしたいと思う。
- ・困っている外国人の方がおられたら声をかけようと思うが、距離を感じる。
- ・身振り手振りで通じることが多い。
- ・翻訳アプリである程度のコミュニケーションはとれた。
- ・言葉のニュアンスと漢字が伝わりにくいことが多かった。相手方の気持ち、態度等を思いやると、伝わってくることも、経験した。
- ・職場で一緒に仕事をしていたが、初めはなかなかコミュニケーションがとれず苦労したが、相手を理解する事でコミュニケーションがとれるようになった。
- ・日本人には常識であるルール、仲間として働くときの暗黙のルールを理解してくれておらず、相手を思いやりながらバランスを取ってチームを維持することが難しく、日本人が外国人を思って遠慮して我慢してしまうようになってしまった。
- ・外国人の方たちも日本国内で自由に自動車に乗っているが、納税や車検整備の必要性について、なかなか理解が得られなかった。
- ・普段は日本語で会話していても、不利な場面では(ゴミステーションでのトラブル、交通違反で警察官の取り調べなど)母国語が使われる。
- ・トラブルは少なからず発生すると思うが、運転免許・自賠責保険・任意保険など、最低限の保障・保証・補償について日本ルールを守って頂きたい。
- ・トラブルの発生した際、外国人県民が日本語を話せなかったため、話が全く進まなかった。日本のルールや文化を全く理解しようとされておらず、自分側のルールを押し付けようとする姿勢があった。
- ・外国人の子どもの保護者が日本語が出来ず、コミュニケーションが全くとれなくて困った。
- ・互いの細かいニュアンスの違いが解消されず、最後まで互いの意思疎通が充分図れなかった。

問 14 その他、日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会についてご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・日本人が温かく接し、就労目的の外国人達が真面目に働き、日本の地域のルールを守って生活するのであれば、お互いに安心して生活することができる。
- ・差別意識を持たずお互いが気楽に話し合える地域社会にしたい。
- ・安易な移民政策は反対。日本でキチンと働いて税金を納めて日本国籍を取得した外国人の方々とは差別や偏見なく交流し共に安心して暮らしていきたいと思う。
- ・お互いの文化の違いを認識・理解し、尊重する必要がある。
- ・挨拶から始めたいと思う。日常お付き合いがないと身構えてしまう。
- ・日本のルール、文化を理解し、それにのっとった行動を取れる外国人県民とは、積極的に交流を持ち、お互いの文化の違い等を理解し合えると考える。
- ・思想・心情・宗教は自由でも、日本の社会のルールは守ってもらえるように、日本人が自信をもって言えるようになる必要がある。
- ・お互いに、お互いの事を知らないと、不安になったり批判的になったりするのだと思う。まずは言葉の壁をなくすことが、初めの一步だと思う。
- ・生活してきた環境が違ったり文化が違ったりすると理解し合うのが困難な時はあると思う。お互いが相手の立場や状況を理解し、非難したり遠ざけたりする事なく、どうするのが良いのかを伝えあえる環境が大切だと思う。
- ・気軽に話し合える機会づくりがまず必要だと思う。
- ・お互いのことをよく知る機会をつくる必要がある。
- ・お互いが納得できる距離感を保ち、お互いの文化を尊重し、一緒に生活していく姿勢が大事。
- ・考え方が違うところもあり、お互いが相手を理解することは、結構難しいことだと思う。
- ・「郷に入っては郷に従う」。日本人県民と外国人県民等、みんなが、日本国のルールを守ることが基本だと思う。
- ・日本の文化、慣習、ルール等を理解してもらうことが必要だと思う。
- ・一時的な利益を目的とした就労力確保で外国人を雇用したり、不当な労働条件で就労させるようなことが無いよう、監視、指導も必要だと思う。
- ・日本人県民は、他国の文化、言語を理解しようとするのが大切であるし、外国人県民の方々は、日本ででの生活に馴染むために交流の機会があれば積極的に参加してほしいし、わからないことは、尋ねてほしいと思う。お互いを理解するために、触れ合う機会を最大限に活用していくことが大切。
- ・外国人、障害のある人、マイノリティ。みんなが認め合い暮らしやすい滋賀県であってほしい。